

劇団 SUPER TAICHIMON

Ver.3 「ムスメおぼくす」

作・ナカオタイチ

【配役】

ソラ	中村 榛
マロン	織田 奈那
レオ	下前 祐貴
コタロウ	中尾 太一
ココA	平田 風果
ココB	高乗 蒼葉
マル	藤田 よしこ
青木	渡辺 郁也
赤子	森岡 里世
番人	齋賀 正和

【スタッフ】

舞台監督	木村 篤
音響	平田 忠範 (GENG27)
照明	青木 大輔
舞台美術	小池れい
演出助手	吉川 柳太
演出補佐	桜庭 啓
衣裳・メイク	Mu-
写真	鈴木 豪
宣伝美術	ngsm
動画作成	Sainome.Films.
WEB	NAYU
キャスティング協力	北田希利子
制作補佐	藤咲奈美恵
制作協力	J-Stage-Navi

企画・製作

劇団 SUPER TAICHIMON

ボレロが静かに流れている。

アナウンス

Welcome to our show. We were looking forward to this moment.  
Thank you for being here, We will show you the place where true  
and lie become one. Memorize this time we will spend together  
and keep us in your hearts. We would like to introduce the  
members. (出演者の紹介)  
Let's get start it, SUPERTAICHIMON ver.3 DREAM  
BOX……

#0

舞台中央、無表情で立っている番人

番人

俺は悪くない…俺は悪くない…俺は悪くない…俺は悪くない……

なんの躊躇いもなく勢いよく手を叩く

黒いマントを羽織った青木、赤子がどこからともなく現れ格子の  
前に立つ、番人がもう一度手を叩くと格子を舞台奥まで押し進め  
る、ギイーという乾いた大きな金属音。  
もう一度大きく手を叩く番人。  
白い煙が部屋一面を覆う

番人

感情なんて…いらぬ

M 5 (ベートーヴェン第二章 悲愴)

暗転

# 1

月明かりに照らされたとある一室、ソラが（ベートーヴェン第二章 楽章 悲愴）のメロディーを口ずさんでいる

ソラ  
ラーラーラー♪

青木、買い物袋を抱えやってくる

青子  
ただいまー

ソラ  
おかえりー、今日も遅かったね

青木  
ごめんごめん、ちよつと仕事が延びちゃってさ

ソラ  
ん？何買ってきたの？

青木  
はい、お詫び！

ソラ  
おお、ありがとう

青木  
どういたしまして

ソラ、青木の顔を伺いながら

ソラ  
なんか最近忙しそうだね。今朝も一緒に遊びに行けなかったし…

青木  
ごめん

青子からのお詫びの品を食べながら話すソラ

ソラ  
いや…大丈夫？ちよつとだけ疲れた顔してるけど

青木  
ん？…あ、全然、全然大丈夫だよ。心配かけてごめんな

ソラ  
ならいいけど…、お母さんはまだ帰ってこないの？

困った表情の青木

青木  
え？ああ、ママは今日も仕事で遅くなるってさ

ソラ　　そっか、最近お母さんと全然遊んでない気がするな  
青木　　：うーん、まあ、ママも最近忙しいみたいだからね

ソラ　　そっか、大丈夫かな？

青木　　：うん……。今日は何してたんだ？

ソラ　　いや、ほとんど寝てたよ。だってやる事ないんだもん

青木　　：ごめん

ソラ　　いやいや、父さんは悪くないよ。二人とも忙しいのは分かってるからさ

青木　　：

ソラ　　あ、そういえば今日、窓の外の景色を眺めてただけどき、外を見てるのも結構面白いもんだね

青木　　そうなの？

ソラ　　うん

青木　　：なら、良かった

ソラ　　けど基本暇だったー

青木　　だからごめんって

微笑む二人

青木　　明日はソラが行きたいところに連れてってあげるからさ

ソラ　　え？ほんと？

青木　　うん。どこ行きたい？

ソラ　　えー、迷うなー、じゃああの大通り沿いにあるタコの滑り台がある公園がいいな！

青木　　えー、あそこはちよつと遠いな

ソラ　　あれ？あれ？さつき行きたいところ連れてってくれるって

青木　　分かった分かった！よし！ほら、夜も遅いし寝るか。明日は朝からたくさん遊ぶんだから

ソラ　　え？もう寝るの？

不満げな様子のソラ

青木　　明日も早いから

ソラ　　せっかく待ってたのに

青木　　明日、明日

ソラ　　えーもつと話そうよ

青木、ソラを寝室に導こうとする

ソラ あ！ねえねえ！

青木 おお、突然どうした？

ソラ そういえば今日窓の外にさ、すごい大きな輪っかみたいのが空に架かっているのが見えたんだけどあれは何？

青木 ？何だろう？

ソラ なんかつくさんの色が重なってて

青木 あー、それはね、虹って言うんだよ  
ソラ にじ？

青木 うん、雨が止んで雲が晴れて、お日様が注いだら空にかかるんだ  
ソラ え？なんで？

青木 いや、なんでって言われてもなあ…

ソラ すっごく綺麗だったなー。あれかな、嫌な事があっても晴れるのを信じて待ってればいつかは綺麗な素敵なものが見れるよって事なのかな？

微笑む青木

青木 詩人だなー

ソラ 茶化さないでよ

青木 けど、そう言う事なのかもしれないな

ソラ 今度は外でお父さんとお母さんと一緒に見たいな

青木 そうだな。3人で一緒に見れたらいいな

ソラ うん

青木 ……

ソラ 大丈夫？

青木 よし、ほら、もう寝るぞー。おやすみ

ソラ えー、…うん、おやすみ

寝室へ行くソラ。青木、一人でリビングで佇んでいる。

暫くして電気がつく。酔っ払いふらふらの状態で帰ってくる赤子。

ソラは寝室でぐっすりと眠っている

赤子 ただいまー

青木 今何時だと思っただよ、こんな時間まで毎晩毎晩飲み歩いて

赤子 だって付き合いなんだから仕方ないじゃん  
青木 うん、分かった。お前が飲み歩くのは構わない、けどせめてもつ  
とソラと遊んであげる時間を作ってあげなきゃダメだろ。飲みす  
ぎたを理由に出社のギリギリまで寝てて夜はこんなに遅く帰って  
くる、分かっている？君はソラの母親なんだよ  
赤子 言われなくても分かってるよ。

寝室へソラの様子を見に行く赤子

赤子 ソラちゃんぐつすり寝てー可愛いねえ  
青木 ……もつと親としての自覚を持ってくれよ  
赤子 うるさいな…  
青木 うるさいじゃないだろ、俺はどんなに疲れてても早く起きてソラ  
と遊んで、夜はソラが寂しくないようにお客さんからの飲みの誘  
いも断って急いで帰ってきてるっていうのに  
赤子 それは自分が好きでそうしてるんでしょ？いいよー、そんなにソ  
ラが負担なら私が一人で育てていくから  
青木 負担とかそういう事じゃない、俺が言いたいのはもつと二人で協  
力していいこうよつて事だよ  
赤子 ほんとうるさい  
青木 ソラを連れてきたのはお前だろ、元々は一人で責任持って育てる  
つもりだったんだろ、その責任感が今のお前には見当たらない  
赤子 いや、私は一人で育てるつもりじゃなかったよ、その時は別の男  
と一緒に住んでたから

青木、カツとなり赤子に手をあげる

青木 ……ごめん  
赤子 皆んなそう。結局あんたもそう！そういうところが嫌なの！  
青木 ごめん  
赤子 ううん、大丈夫。分かった、もう無理だね。そんなに私といるのが  
ストレスなら別れよう、それがいいよ。今すぐソラと出て行くか  
ら  
青木 おい、ちょっと待て。考え直せつて  
赤子 無理！もう決めたの！

青木、強引に赤子の手を引っ張る

赤子  
離して！

赤子、青木の手を振り解く

青木  
：。ソラを…大事に出来るのか？  
赤子  
当たり前でしょ、私の子なんだから。ほら、ソラ起きなさい

赤子、乱暴にソラを起こしに行く

青木  
：  
ソラ  
ん？ああ、おかえり  
赤子  
行くよ  
ソラ  
え？こんな時間にどうしたの？  
赤子  
いいから！行くよ  
ソラ  
え？今から？

遊びにいけるとワクワクとしているソラ、そんなソラとは対照的な表情の青木

ソラ  
久しぶりだねー、3人で遊びに行くの

：

赤子  
そうじゃないの。ソラ、パパにバイバイしなさい

ソラ  
え？

赤子  
バイバイして！

ソラ  
え？

青木  
ソラ、ごめん。今までありがとうな。絶対、幸せになってくれよ

状況がうまく掴めていないソラ

ソラ  
え？う、うん。え？どう言うこと？

赤子  
ほらソラ、行くよ

強引に空の手を引っ張る赤子、それを涙ながらに見送る青木、未だに状況の掴めていないソラ

暗転

薄暗い収容室。四角い椅子のようなボックスが5つある。檻の外からは微かに光が差し込んでいる。収容室No.5と書かれた札のなかった格子の中には中に水色のスカーフを巻いたレオ、オレンジ色のスカーフのマロン、緑色のスカーフのコタロウ、黄色いスカーフのココ、紫色のスカーフを巻いているマルが見える

ココ  
ねえねえ

返事に応えない一同

ココ  
ねえねえ、ねえねえ！ねえーってば！  
レオ  
うるせーな、聞こえてるよ！  
ココ  
聞こえてるならなんか言ってみよ！  
レオ  
聞こえてねー訳ねーだろ！クソガキ  
マロン  
ねえ、そんなに怒鳴らないでよ。ココちゃん？どうしたの？  
ココ  
いつここから出られるの？  
マロン  
そうだな…私にはちよつと分からないな、ごめんね

レオ、マルに向かって

レオ  
おい、あんた。あんたはなんか知ってるのか？  
マル  
んー。知ってるといえば知ってるけどー、知らないといえば知らない、こともないわけではない  
レオ  
あ？つまりちよつと知ってるって事か？  
マル  
いやー、本当はよく分かっておらん  
レオ  
何だよ、変な期待させんなコラ  
マル  
堪忍堪忍  
コタロウ  
ちよつとちよつと、無駄なエネルギー使うのはやめましょう。不安なのはみんな一緒なんですから。少し落ち着きましょう  
レオ  
こんな状況でよく落ち着こうなんて言えるな、おい  
コタロウ  
イライラして人に当たっていても何も解決しませんよ  
レオ  
てめえ

コタロウの胸ぐらを掴むレオ、それを引き離すマロン

マロン　ちよつと。あんたの気持ちもわかるけど、あの人の言う通りだよ  
ちよつと冷静になろう  
レオ　チツ

ココ、マロンの方に駆け寄り

ココ　ねえ、お母さんはどこ？お兄ちゃんたちは？お母さんに会いたい  
よー。帰りたいよー  
マロン　大丈夫、大丈夫だから  
レオ　お前それ本当に大丈夫と思ってるの？  
マロン　え？

レオ　俺たちがなんでこんな世界に連れてこられたか知らねーが、なんか嫌な匂いがするぜ、ここは

マロン　：  
あんた…。何も分からないよ！ここにいる皆んな何もわからないでしょ。何にも分からない、不安だし怖いよ。だから大丈夫って言ってるの。自分にもそう言い聞かせてるの、それくらい分かってよ

レオ　無責任なこと言ってるじゃねーよ  
マロン　無責任って…じゃあここで誰か責任取れる事言えるの？誰も責任なんて取れないじゃない  
コタロウ　やめましょう！…皆さん冷静さを欠いています。訳もわからずこんな世界に閉じ込められればそうなるのも無理もないですが

黙り込む一同

マル　じゃあ、みんなでなんか面白いことでもしようか？少しは気が紛れるでしょ

レオ　は？何言ってるんだ？

コタロウ　流石にこんな状況で何かしようなんて気には…

ココ　なに？面白いことって？

マル　んーとね…

レオ　やるわけねーだろ！

ココ　え？なんで？やろうよ！

マロン、レオに近づき

マロン  
ちよつと、あの子がやりたいって言ってるならやりましょ、あの子もなんかちよつとさつきより元気になったし、私達の気も紛れるかもしれないよ。ね？

レオ  
チツ：

マロン、ココを気にしながらみんなに向かつて

マロン  
やりましょ！皆んなでやろう！

レオ  
はあ：

ココ  
わーい！何するの？何するの？

マル  
うん、王様ゲームって言ってね

マロン  
あばあちゃん！

マル  
え？

マロン  
あの、何で今ここで王様ゲーム？

マル  
えー？さつきまであんなにノリノリだったのに：

マロン  
こんな状況でまさか王様ゲーム提案されるなんて普通思わないで

しよ、え？王様ゲームの内容わかって言ってる？

ココ  
ねえ、王様ゲームってどんなゲームなの？

コタロウ  
確か、王様ゲームとは王様が出した命令をランダムに決まった参

加者がその命令をきく、少し破廉恥な：

マロン  
説明しないでいいから！

コタロウ  
すみません

ココ  
やってみよう、王様ゲーム？やってみようよ

マロン  
やらない、やらないよ

マル  
じゃあ、野球拳でも？

レオ、マロン息ぴったりに「するか！」とツッコむ、  
廊下から鉄の扉が開く音。番人、廊下から姿を見せる。

番人  
はい、皆さんいい子にしますかー？

レオ  
テメー、おいここから出せ！

番人  
静かにしなさい

レオ  
うるせー、何なんだよここは。俺をここから出せ！

マロン  
ねえ、私達はどうなるの？

ココ  
帰りたいよー、お母さんに合わせてよ

コタロウ  
ここは一体どこなんですか？何の目的があつてこんなところに

ココ  
ねーってば！

各々番人に大声で訴えてる

番人  
うるさーい！…おい、お前たちなんて顔してんだ笑ってくれよ  
レオ  
は？ふざけんな！

番人  
ふざけてなんていない、そしてお前ちよつと黙れ  
レオ  
訳もわからずこんなところに連れてこられて、笑ってなんかいら  
れるか

番人  
おいおいおいおい、躰がなっていないなーお前は、いいか？この世  
界では…俺がルールだ。お前らは出された飯食っておとなしくし  
てろ。そして俺の前では常に黙ってニコニコしてろ  
マロン  
レオの言う通りよ、こんな状況で笑ってなんていられる訳ないじ  
ゃない

番人  
だから分かってないねー？いいか、お前らの命は俺が握ってんだ、  
出来ないじゃないするんだ。これは命令だ。少しでも元の世界に  
戻りたいと思うのなら俺の言うことを聞いてくれ

コタロウ  
そんな理不尽な事って  
マル  
いいから、大人しくあいつの言うことを聞いておこう  
番人  
さすがだね、君は。実に物分かりがいい  
マル  
：

レオ  
で、テメーは何しにきたんだ  
番人  
新しいお友達を連れてきたよ、ほらこっちにおいで

番人、ソラを格子の前に呼び寄せ強引に収容室の中に押し込む

ソラ  
いてっ

番人  
俺は悲しいよ、こんなところに君を連れてきたくはないんだけど  
ね

ソラ  
ん？え？ここはどこ？ねえ、ちよつと

番人  
ここがどこかなんて君は知る必要がない。お前らにもう一度言う、  
少しでも生きながらえたら黙って俺の言うことを聞いてろ  
レオ  
テメー

番人  
ほら、今日の分の飯だ。そのお前、お前は沢山食いそうだから  
ソラ  
気持ち多く入れてやったぞ。ま、仲良く6人で分けあえ  
え、これだけ？

番人  
ありがたく思え、…じゃあな

立ち去る番人

ソラ おい、おーい！

周りを見渡すソラ

ソラ ここはどこなの？

レオ そんなこと、こっちが聞きてーよ

ソラ いつから君たちはここに居るの？

マロン ほんの数時間前、皆んなほとんど同じ時間にここに連れてこられたの

ソラ そうなんだ、まあ、お腹空いちちゃったからとりあえずご飯でも食べながらお話しでもしようよ

コタロウ 呑気ですね

レオ お前自分が今どういう状況か分かってんのか？

ソラ え？どういうって

マル ー、君は売りに出されてたの？

ソラ 売りに？え？どう言うこと？

マル なるほどねえ。いやいや…

苛立った様子のレオ

レオ そんな事なんかどうでもいいんだよ！とりあえずどうしたらここから出れるか考えよう。おい、ばあさん、何か方法はないのか？

マル うーん

コタロウ 脱出は…不可能ですね。普通に考えてみてください、こっちの格子は体を抜けるほどの隙間はない、三方は壁に囲まれてる、(壁をこんこんと叩く)この壁の外が元の世界だとして、この壁を壊さないと出れないと言うのなら…この壁は素手ではどうする事もできな

レオ チッ

ソラ ちょっと待って、脱出って何？何で脱出なんかする必要があるの？ここで何か酷い仕打ちでも受けた？あ！おばあちゃん、その腕の怪我ってもしかしてここで？

マル いや、この怪我はここに来る前からだよ

ソラ なんだ、びっくりした。みんなも特に何にもされてないの？

ココ うん、何かされたって訳じゃないけど。：怖いよ、こんな狭い世界に知らない人たちがばかりで。早く帰りたい！ママに会いたい！早くお家に帰りたい！

ソラ 大丈夫だよ。君のママも僕のお母さんも今ごろ必死に探してくれてる、すぐ迎えにくるよ

レオ お前、それ本気で言ってるの？

マロン ちよっと！

ソラ え？

マル 君はどうしてここに連れてこられたの？

ソラ どうしてって。昨日の夜、久々にお母さんと遊びに出かけたんだけど、ちよっとはぐれちゃってさ、それでどこ行ったのかなーってしばらく探したらお母さんを一緒に探してくれるって言うってくれる人に声をかけられて

コタロウ ：途中からは僕と同じだ。で、気が付いたらここに連れてこられた訳ですね

ソラ うん

マル 昨日そのー、出かけた時に何か違和感は感じなかった？

ソラ うーん、いつもは遊びに行くときは必ず家の近所だったんだけど昨日はすごい遠くに遊びに行ったなー、それで帰り道もわからずはぐれちゃったんだよ

マロン そう：

ソラ はは、情けない

レオ お前、捨てられたんだよ

ソラ え？

レオ 馬鹿な親にな

ソラ お前、勝手なこと言うなよ

レオ は？馬鹿な親に馬鹿な親って言って何が悪いんだ

ソラ ふざけんなよ、お前

レオ 元の世界への帰り道を分からなくするためにわざと遠くに出かけたんだよ

マロン ねえ、もうやめよう

ソラ 違う、お母さんはいつも仕事で忙しいから、あんまり一緒に遊びに行けないから、だから昨日は遠くに連れてってくれたんだ

レオ 幸せもんだなお前は

ソラ 幸せだよ、幸せで何が悪いんだ。昨日もはぐれる前、たくさんおやつをくれたんだ

コタロウ それは：

ソラ 何も知らないくせにお母さんを悪く言うな！

マロン やめよう

レオ お前は捨てられたんだよ

ソラ 知ったようなこと言うな

マロン

やめよう、二人とも。捨てられたかどうかは分からないじゃない、決めつけは良くないよ、今ごろこの人のお母さんが必死になって探してるかもしれないじゃん、あんたがそう思う気持ちは：わかる、けど、今ここで言うことじゃない

レオ 思ったことを思った通りに言って何が悪いんだ。こいつは捨てられたんだよ

ココ じゃあ、ココも捨てられたから：

レオ あーそうだよ、俺らはみんな同じさ、誰からも必要とされず愛さ

れることもなく、身勝手にこんな窮屈な世界にぶち込まれたんだよ！

マル レオ、そのくらいにしておきなさい。あなた、名前は何て言うのかな？

ソラ ソラです

マル 私はマル、よろしくね

コタロウ あ、えーと：コタロウです

マロン そうです

ソラ マルさん、コタロウさん、マロンさん：はい

マル ソラ、君の気持ちはよく分かる。信じること、とても大事なことだね。私も君のお母さんは君を探してると思う。いや、そう信じた。だから君はレオに何を言われても自分が信じてる事を信じればいい

レオ おい、ばあさん。あんたも分かって：

ソラ ソラはそう信じてる。それでいいじゃないか。希望を捨てることは自分を捨てること。もし希望を捨てたら：その時が本当に捨てられた時なのかもね

ソラ

ココ けど、だって：

ソラ 大丈夫。また必ずもとの場所に戻る

コタロウ そうですね。みんなで無事に元の世界に帰りましょう

マロン でも、元の世界に帰るって言ったってどうすればいいの？

コタロウ それは：

マル さーて、一先ず腹ごしらえ。少し休んでからみんなで考えよう

ご飯の方に行く4人。複雑な表情を浮かべているソラとレオ

暗転

#3

ガタン、ギーという機械音が響く  
格子には収容室No. 4の札がかかっている

レオ おい、全然迎えにこないなー、お前の親はうるさい

ソラ どうすればいいのでしょうか。やはり唯一可能性があるとするならば、あの番人をどうにかするしか方法が思いつかない

マロン どうにかするって？  
それを今考えてるんですよ！

マロン ごめん

コタロウ あ、すみません

マル :

コタロウ けど、ちょっとひっかかるんです  
マロン ん？何に？

コタロウ 昨日あの番人が言ってた言葉です

マロン 番人の言葉？

コタロウ 少しでもこの世界から出たかったら俺の言うことを聞け。黙って笑ってろ

マロン 確かに私もそれは気になったけど

ココ 黙って笑っていれば元の世界に戻してくれるのかな？

レオ おいコラ、ガキ、お前絶対にあんな奴の言いなりになんかなるな。あいつは俺達を弄んでるだけだ。あいつが来たら全力で泣き叫べ、喚け。あんな奴の言う事なんか絶対に聞くんじゃないぞ

ココ え？なんで？

レオ 口答えするな！

ココ わ、分かった！

マロン 何であんたは…

コタロウ ソラさんは何かいい方法思いつきましたか？

ソラ 方法って言われても…僕はジッとここで迎えに来るのを待つのがいいと思うけど

マル 確かにそれも一つの手かもしれないねえ

ソラ だってそれしか考えられないじゃん  
マル うーん、だけど考え行動しなければ始まらない、それは確かだね  
え。それにね、この中には君みたいに迎えに来てくれるであろう  
人がいない者もいるかもしれない

コタロウ :  
ソラ え？どう言うこと？

マル 堪忍堪忍。まあ、だからそういうモノもいるかもしれないって考  
えた上でここから出る方法を皆んなと一緒に考えよう

ソラ : 分かった

マロン 黙って笑ってればいいってどう言うことなんだろう

コタロウ あの番人の言う通り黙って笑い続ける、という事に従ってれば  
いつかはここから出れる

レオ お前らはバカか、そうすりゃ本当に出れるかなんて確証はねーだ  
ろう

マロン それは確かに。しかもいつかって、何年もこんなところにいな  
きやいけない可能性もあるってことでしよう

レオ あんなやつ言いなりになんかなるのはごめんだ

マロン 気持ちはわかるけど、今はそれしか方法がないんじゃ…

ココ ねえねえ！

レオ 何だよ、イライラするからもう喚くなよ

ココ ちよつと気になったんだけどさ。この部屋昨日の部屋と違うよね

レオ そんなこと今更お前に言わなくても全員分かってるよ

ココ 昨日の場所って多分この横の部屋だよ

レオ ああ、だからそんなこと分かっているの。(上手側を指し) 朝方  
でかい音がしたと思ったら、その壁が急に迫ってきて無理矢理  
こっちの部屋に移動させられたんじゃねーか

それがどうかしたの

ココ 昨日の部屋はさ、そのの札が5って書いてあったのに、この部屋  
は4だよ

レオ チッ、ガキ。そんな事全員気づいて…

ソラ 本当だ

マロン 本当ね

コタロウ 確かに…

レオ : まあいい。で、部屋の番号が変わった事とここから出られるこ  
とに何か関係が？

ココ いや、それだけだけど

レオ テメー、クソガキ変な期待持たせやがって

コタロウ あ！ちょっと待ってください。ここに連れてこられた時、確か同  
じような部屋が：

マロン 五つ並んだ！

コタロウ 僕らは一番奥の5番の部屋に入れられた。日が変わり今日は4番  
の部屋

ソラ つまりどう言うこと

コタロウ もしも次、3番の部屋に移動させられたとしたらどんどん手前側  
の部屋に移動させられてる事になる、そして部屋は五つしかない  
もし仮に四、三、二、一、と来て1番の部屋に来たらどうなるの？

マロン ：それは分かりません

コタロウ 肝心なところはいつも分からないんだね

ソラ 1番より手前側に部屋はなかった

マロン つまりあと四日辛抱すれば

ココ ここから出れる！

喜んでいるソラ、マロン、コタロウ、ココ

レオ いやちょっと待てよ。1番の部屋に行ったからといって元の世界  
に帰れる保証がどこにあるんだ

マル うーん：

マロン 言われてみればそうだけど

レオ だからどっちかなんじゃねーか。1番の部屋に移動させられた時。

俺たちは元の世界へ解放される、もしくは：

コタロウ 居場所を：与えられない：存在として…？

マル この世界から処分される

重たい空気が収容室に漂う

ココ え？え？ちょっと待って！処分って何？ココは殺されちゃうって  
こと？

マロン 違う、違うよ、あくまで仮説！（マルに駆け寄り）ってか何なのお  
ばあちゃん、信じる者は何とかって励ましてた思えば、急に不安  
にさせるようなこと言って

マル ー

マロン ー。じゃないっての！

ココ 何？ココは殺されちゃうかもしれないって事？どうして？何で殺

されなきゃいけないの？もうお母さんに会えないの？

レオ だから喚くな。喚くのはあいつが来た時だけにしろ  
ココ だってー！

ソラ 大丈夫。必ず生きて元の世界に帰れるよ

廊下から鉄の扉の音

レオ あいつだ

番人、下手からカメラを持ち現れる

番人 はいはいはい、いい子にしてるか？

収容室にいるの人をカシャカシャと写真を撮りながら笑っている

レオ おいこら！俺達は見せ物じゃねーぞ。どういふつもりだよ。ここから出せ！

番人 やれやれ

レオ おいガキ、何黙ってんだよ！

ココ え？あ、ねー、いつここから出れるんですか？ココは殺されちゃ  
んですか？ねー！

番人 だから言ってるだろう。少しでもこの世界から出たいと思うんな  
ら黙って笑ってるって

マロン その黙って笑ってるってのは一体どういう事なの？黙って笑って  
いればここから出れるの？

番人 ；いや、そんな簡単な事じゃない。限りがあるんだ

コタロウ だから限りつてのはなんなんですか？教えてください！

番人 可哀想になあ、何とかしてあげたいけどなあ

レオ テメエ何ふざけた事言ってるなよ。だったら早くここから出せ！

威勢を上げるレオ

番人 お前達はな、向こうの世界から見放されたんだ、見捨てられたん  
だ

ソラ 見捨てられた：

番人 そうだ、不必要な物として判断されてしまった。そんなお前らが

唯一向こうの世界へ戻れる可能性があるとするれば、黙って笑って  
ることだ

マロン

だから黙って笑ってろってのはどういうこと？

番人

向こうの世界では我儘を言わず黙って頷く、イエスを求められればイエスと答える。そんな奴が重宝される。逆らって噛みつきや潰される、そういう世界なんだよ

ココ

我儘を言っちゃいけないの？お腹が空いたらお腹が空いたって言ったらいけないの？じゃあ、ココたちは何のために生まれてきたの？

番人

：そんなことはお前達自身で考えてみる。まだ時間はある。ほーら今日の飯だ。いい子にして、この世界を精一杯楽しんでくれ

下手にはける番人

レオ

(大笑いするレオ) 俺が言った通りじゃねーか、やっぱり俺たちは捨てられたんだ

マル

：捨てられた

ソラ

なんだ：何がいけなかったんだ。僕は何がいけなかったんだろう何もいけないことなんかしてないと思うぞ

ココ

もう、お母さんには会えないんだ、ココが我儘だったから、お兄ちゃんやお姉ちゃんとは喧嘩ばかりかしてたから、ココがいい子じゃなかったから、だから捨てられちゃったのかな。今からいい子になっても遅いのかな、いい子にするから！喧嘩もしないから！我儘も言わないから！だから、だから：

レオ

おーい、もうあいつはいないんだ、うるせーから泣くんじゃねえぞ

マロン

：あんなこと言われて、泣きたくならない方がおかしいわ。私たちは何？何なの？やっぱり、もう向こうの世界には不必要な者って事？

ソラ

違う！絶対にそんな事ない、不必要なんかじゃない。僕も、みんなも必要だから生まれてきたんでしょ？必要だったら何で生まれてきたの？僕はお母さんやお父さんに、みんなはみんなの大事な人に必要とされたから生まれてきたんだよ。だって、僕たちはこうして生きてるんだから。意味分らないじゃん！不必要な物を神様が作るわけないじゃん

コタロウ

そう思いたいのは山々ですが：

ソラ

あんな奴の言うことなんか鵜呑みにしちゃ駄目だよ！

レオ

面倒くせーんだよ、お前。何熱く語ってるんだよ。気持ち悪い。

お前だってもう気付いてんだろ。自分が向こうの世界から必要とされてない存在だって

ソラ そんな事ない、絶対にそんなはず

レオ 必要とされてねーんだよ！

ソラ 信じようよ！疑うのをやめようよ。せつかく生きてるんだから。

疑うことって疲れない？信じる事も疲れるかもしれないけど、どうせどっちも疲れるなら、僕は信じて疲れた方がいい。僕はお母さんを信じる。自分のことも！僕たちは絶対に不必要なモノなんかじゃない！

ソラの言葉に僅かな希望を感じた一同

レオ ははっ、気持ち悪い

ココ 信じる。わたしも信じるみる！

レオ は？

マロン、ココの意思を感じ

マロン そうだね、信じてみようか

コタロウ そう…です

マル うん。お腹が空いたねー、とりあえずご飯でも食べない？

レオ 勝手にしろ

ご飯の方へ向かうソラ、マル、コタロウ、ココ。

苛立った様子のレオ。そんなレオを心配そうに見つめるマロン

暗転

汗を拭いながら収容房の床をデッキブラシで磨いている番人。突然携帯電話が鳴る

番人 …はい

電話の声は赤子

赤子 もしもし、そちらに赤いスカーフを巻いた男の子を預かっていま

番人

せんか？  
え？

暗転

# 4

晴れた空の下、赤子、青木、ソラが幸せそうに歩いている。世界はキラキラ輝いている

赤子 ソラ！ 待って、走らないの

ソラ あ、ごめんごめん

青木 久しぶりに3人でのお出かけなんだ、はしゃぐのも無理ないよ  
赤子 そうだけど

ソラ ねえねえ、今日は虹はかからないの？

青木 今日は朝から天気いいからなー、虹はかからないかな

ソラ なんだ

赤子 何？ ソラ、虹が見たいの？

ソラ うん、一度家の中でしか見たことないから外で見たくてさ、しかも今日だったら3人で見れるじゃん

赤子 別に虹なんていつでも見れるじゃん

ソラ そうなの？

赤子 まあ、いつでもって言うかそのうち見れるよ

青木 でも、ソラは早く見たいんだよな

ソラ そのうち見れるならいいさ、なんか楽しみだなー、いつ見れる日が来るのかな

微笑む青木と赤子

ソラ いやー、けど嬉しいなこうして3人で出かけられて。まあ、分か

ってただよね。お母さんとお父さんは本当は仲良しなんだって

青木 なんだよ今更、そんな事わかってたがる？

ソラ いや、そうだけど

赤子 心配かけてごめんね、ソラの前ではいつも喧嘩ばかりだったからね。でももう心配しなくて大丈夫。寂しい思いもさせちゃってご

めんね

ソラ 僕は全然平気だよ。けど二人が喧嘩していると、何だか僕がいけな



ソラは呆然と立ってる

ソラ 生きてる…

倒れるソラ、その後全員バタバタと倒れる。格子を正面に戻す黒いマントを羽織った青木、赤子。

一人立っているマル。収容室の中。マル、ソラに声をかける

マル ソラ、ソラ、大丈夫？

目を覚ますソラ。マルの声で目を覚めますが寝たふりをしているコタロウ

マル 大丈夫？かなりうなされていたけど…？

ソラ う、うん。大丈夫。嫌な夢を見たな

マル 無理ないさ、こんなところで健やかに幸せな夢を見れる方がどうかしてる

ソラ お母さんとお父さんと…そっか、夢だったのか

マル なんだ、いい夢見てるじゃないか、どんな夢だったんだ？

ソラ いや、でも…うん、ちよつと思いついたくないや

マル そう、無理に言う必要はないよ。ごめんね

あくびをするマル

ソラ あの、その…マルさんのその腕の怪我はどうしたんですか？ここで怪我したわけではないって言っていましたけど

起き上がるコタロウ

マル …うん、これはね…

コタロウ すみません、寝たふりをして聞くのも嫌だったんで、僕もそれは気になってました

マル うん、少—し長い話になっちゃうんだけど、いいかな？

頷く二人

マル 実はね…私は以前この世界に一度来たことがあるんだ

ソラ え？

コタロウ 一度来た事がある…。という事は一度はここから脱出できたという事ですか？

マル 脱出：それはちよつと違うかもしれないな

ソラ どういうこと？

マル うん、その時も：そうだね、あんた達みたいに気のいい方々との世界に閉じ込められていた、当時はココちゃんと同じくらいの年齢だったし、かなり昔の事だから何でこの世界に連れてこられたかまでは覚えていないけど

何かを察するコタロウ

マル この世界に連れてこられて二、三日経ったある時、当時この番

をしていた者にこの世界の外側へと連れ出され新たな親に引き渡された

コタロウ

ソラ 新たな親？

マル そう、今までとは全く違った場所、環境だね

ソラ

マル いい親達だった、沢山遊んでくれたしこんな私を愛してくれた、私もその愛情に精一杯返してあげたかったんだけど：歳はとりにくくないもんだね、ここ数年は体がいうことを聞かなくなっちゃたねえ：色んな迷惑をかけてしまったなあ

ソラ

コタロウ で、それから何でまたここに連れてこられたんですか？

マル

コタロウ え？

マル立ち上がり正面を見る。

マルの頭の中には燃え上がる炎とサイレンの音が甦る

マル

出火の原因が何だったのかは分からない、家中が黒い煙で覆われた、どうしようもなかった、逃げ道もない、どれだけ口を大きく開けても全く息ができなかった、私はその場で倒れ喘ぎ苦しんだ

コタロウ

マル

もう駄目だ、意識が遠のいたその時だった、親達がね、私を抱き抱え2階の窓から放り出してくれた：この腕はその時の怪我なの

ソラ …それでマルさんの家族は？

マル 分からない、おそらく…うん。私は病院に運ばれ一命を取り止めたが、しばらくし再びこの世界に連れてこられた

コタロウ そうだったんですね

ソラ え？この世界って…？

マル 私の話はこれで終わり。堪忍堪忍、話が逸れてしまったし暗くなるような話になってしまつて

ソラ いえ…

コタロウ 話してくれてありがとうございます

ソラ なんか、うん、なんか何の慰めにもならないと思うけど、マルさんのご両親は命をかけてマルさんを助けたんだよね

マル …

ソラ ごめん、ちょっとうまく言葉に出来ないけど、マルさんのご両親の分も毎日を精一杯生きなきゃ！そうだよ？今はそう思うよ

ソラの目をじっと見つめるマル

マル うん、そうだな

「手のひらを太陽にを」歌い出すソラ。マルを励ますようなソラの歌声が響く

マル ん？

ソラ あ、いや、今日夢でみんなが歌ってたんだ

「手のひらを太陽に」を口ずさむマル。ソラ、コタロウもそれに合わせて一緒に口ずさむ。微笑む一同、優しい時間が流れる

マル …ソラ、コタロウ

ソラ ん？

マル …ありがとうね

ソラ いやいや

コタロウ あの？

マル ん？

コタロウ で、マルさんはどうやってここから元の世界へ戻してもらえたのでしょうか？昔マルさんと一緒にいた他の人たちがどうなったかは？

マル それは分からない。ごめんね、何の力にもなれなくて  
コタロウ あ、いえ

大きなあくびをするマル

マル ん、んあー、喋りすぎで疲れて眠くなっちゃった

微笑むソラとコタロウ

コタロウ 寝ましようか

ソラ そうだね。うん、おやすみなさい

マル おやすみー

再び眠りにつくコタロウとソラ。マルはひっそりと収容室の隅に  
移動し声を抑えすすり泣いている

照明チェンジ

しばらくしてマルも眠りにつく。同時にレオが起き上がりマルを  
見つめている。しばらくし格子の方に向かいどこか遠くを見つめ  
ているレオ。マロン、目を覚ます

マロン 珍しいじゃない、あんたがこんな時間に起きてるなんて

レオ ああ

マロン どうしたの？なんか嫌な夢でも見た？

レオ いや、そんなんじゃないけど

レオの異変を感じるマロン

マロン あんたはさ、この世界についてどう思う？

レオ どう思うってなんだよ

マロン 私はさ、こんなに窮屈で退屈で不安だらけのこの世界に、なんか  
ホッとしている自分があるんだよね

レオ 頭おかしくなってんじゃないの？

マロン そうかもね。けどそれはあんたも同じじゃない？

レオ :

マロン ここでは、我儘を言っても誰にも殴られない、叩かれる事もない、

レオ

罵られる事もない…私たちって何なんだろうね

暗転

#5

### 閉店間際のBAR

カウンターの途中でグラスを拭きながら窓の外をボーッと眺めている青木。店内にはクラシック音楽と外からの微かな雨音が聞こえる。店のチャイムがなる

青木

すみません、今日はもう閉店なんです

番人、店内に入ってくる。驚いた様子の青木

青木

久しぶりだな、元気だったか？

おしぼりとコースターを出そうとする青木

番人

まあまあな、悪いまた出直すよ

青木

いいんだよ、気にしないで、座ってよ、何飲む？

番人

そのウイスキーをストレートで、お前も飲んでよ。乾杯しよう

青木

…ありがとう

青木がウイスキーと水を注ぎカウンターに置く

番人

乾杯

青木

乾杯

二つのグラスを重ねてゆっくりと飲み始める二人。番人は一杯目をすぐに飲み干してしまう

番人

ごめん、同じもの

青木

はい

青木、同じグラスにウイスキーを注ぎ入れる

青木 お前がこの店に来るなんて珍しいな。ってか初めてじゃないか？  
番人 全然来れてなくてごめんな

青木 いや、気にしないで。バーなんだから、来たい時にくればいいよ  
番人 ありがとう。お前は最近どう？お店は忙しい？

青木 お客さんはちょっとずつ増え始めてきたかな、お店はいい感じだ  
よ。プライベートは全然だけどな

番人 結婚は？

青木 : 全く。ちょっと前まで結婚を考えてた彼女と2年くらい一緒に  
住んでたんだけどね。別れて今は実家で両親と暮らしてるよ

番人 そっか、今は実家なのか

青木 俺もまだまだ子供だった。彼女の我儘を受け入れる程の器がな  
った

番人 そういうふうに見えるお前は大人だと思っけどな

青木 やってはいけないことを彼女にしてしまったし、反省もしている、  
まあ、失って色んな大事な事に気付いたよ:で、お前は？

番人 え？

青木 いい人いないの？

番人 結婚って何？って感じだよ

笑い合う二人

番人 でもお前はすごいな、学生時から飲食で自分の店を持ちたいっ

青木 て言ってたもんな。夢を叶えてるんだもん

番人 いやいや、まだまだこれからだよ。毎日必死だ

青木 :でも凄いよ

番人 お前は？どう？

青木 :うん

少しの沈黙。青木が番人を察し

青木 溜め込むのは良くないぞ、話ならいくらでも聞きますよ。そのた  
めのバーなんだから

番人 うん:、俺はさ、沢山の命を助けたいから必死に、本当必死に勉  
強して医学を学んだんだ。でも配属された職場はあそこだ。

青木 うん

番人 俺は、命を救うために医師になったんだ。殺すために勉強してき  
たわけじゃない

青木 そうだな  
番人 今までに何千、何万の命を俺は…

青木 …  
番人 最初のうちは気が持たなかった、心も身体も病んだ。けどある時ふと思ったんだ、俺は悪くない、俺は機械だ、感情なんていら  
ないって

青木 …  
番人 あの場所で自分を保つ為の防衛本能なんだろうな。けどあそこを  
一歩でも出れば…葛藤の毎日だよ。未だに何が正解か分からな  
くなる時もある

青木 うん  
番人 悩んでいる場合じゃないって事はわかってるんだよ。健康で懐っ  
こい子は譲渡会に出して救える場合もある。新しい家庭に迎え入  
れてもらえる事もある。でもそれにも限りがある。期限がある。  
命をさ、捨てるのは簡単かもしれないよ、けど救う事は簡単じゃ  
ない

青木 …  
番人 勿論全員の命を救ってやりたいよ。でもそんなこと出来ない。捨  
てる奴が減らない限り灰になっていく命はなくなりはないんだ  
そうだな

青木 うん、だから俺はさ、多くの人にこの現実を、この残酷で無責任  
極まりない事実を伝えなきゃ行けないと思ってる。捨てられる命  
を減らすために何をすべきか考えてもらわなきゃいけない

青木 そうだな…命と向き合っている真剣勝負の仕事をしているお前だ  
からこそ…多くの人に伝えられることがあるのかもしれないな  
…ごめん、喋り過ぎた

青木 伝わるといいな…。俺さ、人って、年月と共に徐々に成長し変わ  
っていくもんだ思ってたんだ

番人 …  
青木 だけど、違うんだよな。何かのほんの小さなきっかけ一つで一氣  
に大きく変わることが出来るんだよな

番人 …  
青木 そうなんだよな…  
番人 え？

青木 いや、うん…俺も色々考えさせられたよ。何か手伝えることがあ  
ったら言っとな  
番人 ありがとう

番人、グラスに残った酒を一気に飲み干す。店内のBGMが悲愴に変わる

番人 もう一杯だけ、同じものを

青木 一杯と言わずもつと飲んでいけよ

番人 明日も朝早いからさ

青木 そっか

番人立ち上がりあたりをキョロキョロと見回す

青木 トイレはまっすぐ行って突き当たりだよ

番人 ありがとう

青木、番人のグラスを片付けている

青木 会いたいけどなー、うん。駄目だよなあ。ソラ、元気にしてるかな

暗転

#6

ギィーと金属音が鳴り響く。格子には収容室No. 3の札がかかっている。ココと隅で一緒に遊んでいるマロン。一人壁にもたれかかっているレオ。ソラ、コタロウ、マルが半円になって話している

コタロウ 残り二晩…

マル どうしたもんかなー

ソラ とりあえず、やっぱりあいつの言うように大人しく待ってるしかないのかな…

ココ ねえねえ

ココ ねえねえ

マロン ん？

ココ なんでマロンさんはココにそんなに優しくしてくれるの？

マロン ん…

レオ おい！

ソラ え？

レオ 待ってたところで何も始まらねーだろ。どうやったら出れんのか  
考えろよ

ソラ じゃあ君も一緒に考えてよ

レオ ずっと考えてるわ。つかお前さ、いちいち感に触るんだよ

ソラ そんな、何でそんなに僕に強く当たるんだよ

レオ 気に入らねーもんは気に入らねーんだよ

マロンが二人を気にしている

コタロウ ちよつと二人とも

レオ 何が疑って疲れるより信じて疲れた方がマシだだ。ふざけんじゃ  
ねーよ

ソラ は？

レオ お前みたいにバカな奴を信じて裏切られるんだったら最初から信  
じねー方がましだろ。そっちの方がよっぽど疲れねーわ

ソラ いい加減にしろよ！お前！

レオの胸ぐらを掴むソラ。レオ、暫くし過去の事を思い出し急に  
ガクガクと怯え始める。それに戸惑うソラ

ソラ お、おい。ごめん、大丈夫？

レオ急に怒りだしソラを威嚇する

レオ おい、テメーこっち来い、ぶっ殺してやる。おい！

マロン必死にレオを抑える。びっくりしているコタロウとココ

マロン 落ち着いて！レオ、落ち着いて

声を荒げているレオ

マロン レオ、ほら、ソラだよ。あの人じゃないよ。レオ、レオ！

レオ、息を荒げながらも何かの怯えている様子だが徐々に落ち着  
きを取り戻し始める

マロン 大丈夫だから、大丈夫だから。ちょっと横になろうか

マロン、レオに肩を貸し隅まで連れて行く。レオ、まだ少し息を荒げながらもゆっくり横たわり、眠りにつく。心配そうに見守る5人

マロン 大丈夫、ちょっと疲れて寝てるだけ。昔色々あって。たまにああ

いう発作が起きちゃうの

ココ 何？何だったの？

マロン びっくりさせちゃってごめんね

ソラ、マロンに近寄り申し訳なさそうに

ソラ あの、ごめん

マロン ううん、ソラは悪くないよ

マル、ため息をつきながら

マル かなりのトラウマだね

うなづくマロン

ココ トラウマ？

マロン そう

ソラ あいつ、何かあったのか？

マロン話していいかどうか考え込む

コタロウ 無理にとは言いませんが、話せる範囲で話してもらえませんか

マロン、重い口を開ける

マロン 私とレオはね、ここに来る前も同じ場所にいたの

ココ え？兄弟って事？

マロン 兄弟？んー、まあ、そんな感じかな、血は繋がってないんだけど

ソラ :

ね

:

マロン 私たちはここよりもずっとずっと狭い施設で育った。そこには何十人もいた。そしてこんなに綺麗じゃなかったし、ご飯すらろくに出してもらえなかった。ここがましに思えるようなひどい場所だったのはまちがいないかな

ココ 何？何なのそこ？

マロン ；何なんだろうね。ただ、私とレオは必要とされなかった、されなくなったから、あの場所に連れて行かれたって事だけは分かっている

ソラ え？連れて行かれた？

一同真剣にマロンの話に耳を傾けている。照明の色が変わる。  
マロンとレオの回想。

取引屋の薄汚れた施設。それぞれ檻の中にいるレオとマロン

レオ まだガキの時だったからあまり覚えてないんだけど、俺は値段をつけられて売りに出されてたらしい

マロン え？

レオ ああ、で、売れなかったんだって。必要とされなかったみたい。それでこの施設に引き取られた。これも本当かどうかは分からない、お前の前にその檻の中にいた奴にそう言われた

マロン 売れなかったからこんなところに連れてこられたってこと？そんなのおかしいよ！それに人の命に値段なんかつけていいわけがない

レオ 俺だってそんなこと思いたくない、でもそれが現実らしい

マロン ；

照明が変わり、マロンにサスが当たる

マロン レオとはそこで出会った。私たちはさっき言ったような汚くて小さい小さい檻に閉じ込められてた

元の照明に戻る。レオの檻が開けられ引き取り屋が棒でレオを何度も殴っている。痛がるレオ。檻を閉めて去る引取り屋

マロン 大丈夫？

レオ 何で、何でなんだよ

マロン、冷めた口調で

マロン 殴られたくなかったら大人しくしてればいいのに  
レオ わかんねえ。何でこんなに殴られなきゃならねーんだ。なんか俺  
が悪い事したか？ただ話したいだけだ。遊びに行きたいだけだ。  
俺はあいつに何も求めちゃいけないのか？

マロン : そうだよ。まだ分からないの？あいつは私たちにこれっぽっち  
の愛情もないんだから  
レオ わかんねえ、わかんねえよ。 : なあ？

マロン : 愛ってさ、何なのかな？

レオ : 何言ってるの。そんなの私に分かるわけないじゃん  
レオ そうだよな

沈黙

レオ お前、こんなところでこのまま一生を終えていいのか？

マロン え？

レオ お前、この檻の更以外の世界を知ってるか？

マロン え？

レオ この檻の更には光り輝く空があるんだってさ

マロン :

レオ でな、俺たちの何百倍、何千倍、いやもう訳分からんくらい広い  
大地があるんだってさ。草木も花も何もかもがキラキラと輝いて  
る

マロン そう。この檻の更以外の世界はキラキラ輝いてる

レオ お前、見たことあんのか？

マロン 見たことあるも何も、ここに連れて来られる前はそれが当たり前  
の景色だった。当たり前だと思ってたのにな

レオ そうか :、見てみてーなあ

引き取り屋が現れる

レオ おい！おい！外に連れてってくれよ！

マロン レオ！

檻を開けて力強くレオを殴る。レオ、悲鳴をあげる。引き取り屋

がはけると共に元の照明、舞台位置に戻る。  
回想終わり

マロン  
レオは親だと思いたかった人間から酷い暴力を受けてた、そのせいであいつは右目は視力を失ってるし、そんなトラウマのせいで興奮するとたまにああいう発作が起きちゃうの  
ソラ  
酷い：

舞台端に番人の姿、6人の会話を聞いている

マロン  
レオがあんなに人を信じられないのも、そのせい。強がってるのも、声を張り上げてるのも、自分を強く見せるため。何も知らない自分の劣等感を隠すため。全部、レオなりの一種の防衛本能なんだと思う

マロン、ココの頭を撫でながら

マロン  
あいつが色々とごめん。怖かったよね。ココちゃんは私が守ってあげるから大丈夫だよ  
ココ  
う、うん  
コタロウ  
マロンさんは、そのレオさんと一緒だった施設に入れられる前はどちらに？

マロン、ココを気にしながらコタロウを見つめ静かに首を振る

コタロウ  
え？

コタロウ、マロンの意図を察し黙って頷く

ココ  
え？何？  
コタロウ  
いえ：

レオ、項垂れながら目を覚ます

ソラ  
あ！

レオの過去を知り、それぞれが色々な事を考えている

マロン 大丈夫？  
レオ :

レオに歩み寄るソラ

ソラ ねえ

？

ソラ 前にお父さんから聞いたんだけどさ…

レオ なんだよ

ソラ 雨が止んで雲が晴れてお日様が注いだら虹っていうそれはそれは綺麗な輪っかが空にかかるんだって！

レオ :にじ？

ココ そうなの？

ソラ うん、嫌な事があっても晴れるのを信じて待っていればいつかは綺麗な素敵なものが見れるよって事なんだってさ！

ココ へえー

ココがレオに歩み寄る。レオ、ココを睨みつける

レオ なんだよ

ココ レオさん？絶対一緒にここを出ようね！

レオ あ？

ココ そうだよ！

レオ ？

外の世界ってすごく広くて眩しいんだ。太陽の光ってね、すごく気持ちいいんだよ。何だか元気が出るんだ。外の世界について、あたしもまだまだ知らないことばかりだけど、ここを出れたらさ、一緒に色んなところに遊びに行こう！みんなで行こう！あたしが沢山案内してあげるから！みんなと一緒に虹を見に行こうよ！

マロン ココちゃん…

ココの言葉をそれぞれが受けている  
レオ、マロンを睨みつける

マロン …ごめん

レオ、ココを睨みつける

レオ  
：何言っただクソガキ、テメエに言われなくても最初っからそのつもりだ

ココ、レオに臆さず希望に満ちて笑っている

レオ  
鬱陶しいから向こう行け！

マル  
ココ、こっちへおいで

レオは一人何か考えている様子  
ココ、みんなの元にもどる

ココ  
ねえ！みんなで歌でも歌おうよ  
マル  
いいねー、何歌う？

「手のひらを太陽に」を歌い出すソラ

コタロウ  
またその歌ですか？

マロン  
何？またって？

ソラ  
いいじゃん！

「手のひらを太陽に」を元気よく歌い出すココ

ソラ  
おお！

楽しそうに歌を歌う5人、ココやソラの言葉を受け今まで味わったことのない感情に戸惑う表情のレオ

舞台の隅では複雑な表情で5人の歌を番人が聞いている

暗転

施設の廊下。誰かを待っている様子の番人。赤子、下手からやって来る

番人 お待ちしておりました  
赤子 お電話でもお話ししましたが、役所に聞いたらうちの子がここに  
いると聞いたもので  
番人 はい、管轄内で引き取った子は全てこちらで預かっています  
赤子 で、まだうちの子は生きてますか？  
番人 ええ、まだ今はおりますよ  
赤子 よかった  
番人 はい、よかったです。ご案内しますね、こちらです。

番人、赤子を奥の収容室まで案内する

暗転

#7

ガタン、ギイーという音。格子には収容室N〇・2の札がかかっている。収容室N〇・2の札を見るコタロウ

コタロウ 時間が迫ってきましたね

沈黙する6人

ココ でも、大人しいいい子にすれば出れるって言ってたよ  
レオ まだそんな話信じてんのか？時間がねえ、なんかいい案はないのかよ？

コタロウ うーん…

マロン ねえ、ソラのお母さんとお父さんってどんな人なの？

ソラ え？なんで？

マロン いや、そこまで信じられるってすごい事だなんて思うから

ソラ うーん、どんな人か。優しい人たちだよ。お父さんとはしばらく会えてないんだけど、家にいるときはずっと遊んでくれたてし。お母さんにはよく怒られてたからちよっと怖いときもあったけど、昔はよくね、ぎゅーって優しく抱きしめてくれてたんだ

マロン そっか

ソラ …うん

レオ 気持ちわる

ソラ またお前は

レオ　ぎゅーって優しく抱きしめてくれるんだ…

ソラを茶化すレオ

ソラ　おい！いじるな

マル　はい、ぎゅーって優しく…

ソラ　ちよつと！やめてよ、マルさんまで

笑っている一同

コタロウ

ココ

みんなよく笑っていられますね！もうすぐ…！いえ…  
…もうすぐなに？

コタロウの言おうとしてることを察し沈黙する一同

ソラ、檻の外を見つめてる

廊下から扉が開く音。響く足音

レオ

マル

おい！あいつだ！  
ん？

マルとコタロウ、目を見合す

コタロウ

ソラ

はい、一人じゃない  
ん？

番人、下手から赤子を案内して連れてくる

番人

赤子

こちらです  
あ、いた！ソラ！

ソラ、すぐさま振り向き、驚きと喜びの表情

ソラ

赤子

え？  
よかった、ソラ！

喜ぶ赤子、同じように喜ぶソラ

ソラ  
お母さん？  
レオ  
え？  
ソラ  
お母さん！

一同驚きの表情。大喜びで赤子に近づくソラ。ココも一緒に喜んで  
いる表情

赤子  
ソラ！よかった！

喜ぶ二人。暫くして赤子、カバンから携帯電話を取り出しソラに  
向ける。何かおかしいと感じる番人

赤子  
はい、撮るよ。ソラ、笑って

シャツターを切る赤子。ソラは少し戸惑っている。赤子、インカ  
メラにし自身とソラが収まるようにカメラを向ける

赤子  
ほら、ソラ！笑ってって

シャツターを切る赤子。何が起こっているのか分からない番人

番人  
あの…

一通り写真を撮り終え満足そうな赤子

赤子  
これでソラとのいい記念ができました。最後に写真撮れてよかつ  
たです。ありがとうございます。では

帰ろうとする赤子。番人、すかさず呼び止める

番人  
え？ちょっと待ってください。この子を連れて帰るんじゃないん  
ですか？

赤子  
え？

番人  
この子を…連れ戻しにきたんでしょ？

赤子、番人の目をじっと見つめ

赤子  
いいえ

沈黙する一同。何が起こっているか理解していないソラ

赤子  
最後に写真を撮りにきただけです。ソラはここで殺されるって聞いたもんで

一同、未だに状況をうまく理解できていない。番人、檻の中の6人の様子を気にしている

赤子  
そうでしょ？

番人  
：殺されるって？本気で言ってるんですか？

赤子  
はい

番人  
：あの、あなたが大事に育ててくれればこの子は死ななくて済むんですよ

赤子  
何言ってるの？育てられないから捨てたの

檻の中の6人、少しずつ状況を理解し始める

番人  
この子が：殺されてもいいのか？

赤子  
：私が殺すわけじゃないんだから。そんなに殺すのが嫌ならあんたが育ててあげたらいいじゃない、それかずーっとここで育ててあげたら？

番人  
ふざけるな…ふざけるな！

赤子、怒鳴る番人に驚く。初めて番人が感情をあらわにしたのを見て戸惑う6人

番人  
なんですか、捨てるって？この子はモノじゃないですよ。生きています、命なんです！

赤子  
だからそう思うんだったらあなたがここで育てて…

番人  
そうしたいに決まってるじゃないですか！だけど年間どれだけの子が捨てられていってるか知ってますか？救える命には限りがあるんです！

赤子  
何？限りって？

番人  
可哀想という気持ちだけでは命は預かれないんです！

赤子  
番人

でも可哀想って思ってるんでしょ？  
当たり前だ！死ぬほど思うに決まってるだろ。だからそんな不幸  
な子を増やさないために：まずあなたのその考えを改めていただ  
きたいんです、お願いします！

赤子  
番人

別に私は殺すつもりで育ててたわけじゃ…  
興味本位な一時の軽い気持ちで命を預かるな！この子らはあなた  
みたいな人の考え方次第でいい子にも悪い子にも、不幸にも、幸  
せにもなるんです！

赤子、ため息をつき上手に去ろうとする

赤子

あなたに私のなに分かるの？

ソラの悲痛な叫びをあげる

ソラ

行かないで！行かないで！お母さん！

赤子

：

迎えにきてくれたんじゃないの？もう我儘なんか言わないから！  
何でもいうこと聞くから！絶対にいい子でいるから！

赤子

：。じゃあね、ソラ

ソラ

行かないで！行かないで！

番人、悲痛な表情。上手にさる赤子

ソラ

ずっと、待ってるから！

ココ、涙ながらにソラを優しく抱きしめる。番人、その場で立ち  
尽くしている

暗転

# 8

収容室の隅で眠っているココ。ソラは格子の前で呆然としている。

マロン

泣き疲れちゃったんだね

マル

もっと泣き喚くと思ってたんだけどねえ

コタロウ ここ数日で無意識に死を受け入れてきていたんだと思います、：  
それは僕を含めて。それより：

コタロウ、心配そうにソラに目線を送る

マロン ……いよいよ、明日…

レオ立ち上がり、ソラのそばに歩み寄る

レオ おい、俺の言った通りだったな

ソラ ……

レオ お前、まだあいつがお前を迎えに来るって信じてんのか

ソラ ……

レオ やっぱりしようもない親だったな

マロン レオ！

ソラ、立ち上がりレオの胸ぐらを掴む。それに驚くレオ

コタロウ ソラさん！

はっとするソラ

レオ ……

レオ、涙目で震えてる。少し驚いた表情のソラ

レオ 何なんだろうな、俺たちって。俺は何も信じる事が出来なかった。信じることも出来なかった。お前は…信じていたのにな。信じてるんだもんなあ。そう思える人生ってどんな人生なんだ？教えてくれよ

ソラ ……

レオ 俺の人生って、俺たちの人生って何だったんだよ！

それぞれ、自分自身を振り返ってる

マル

皆んな、もう分かっていると思うけど…明日おそらく私たちには…死が待ってる

複雑な表情で俯く一同

マル だけど、あの番人は私たちを殺したくてこんなところに閉じ込めてるわけではないみたいだねえ

ソラ お母さんに言っていた言葉を聞いて、僕も…そう思ったよ

マル ソラ…。よく思い返してみようか、今まで番人が言っていた事を

コタロウ 黙って笑ってろ、いい子にしてろ

ソラ …救える命には限りがある

マル うん。私の時もそうだったように全員助かるのは…ごめんね、おそらく無理なのだと思う

マロン え？どういうこと？

黙ったままマルの言葉を受け入れるレオとマロン

マル だけど限りがあるということは私たちには生き残れる、外の世界に戻れる僅かな可能性があるということ

マロン 僅かな可能性…

マル そう。その限りのある僅かな可能性を…誰に託すか

沈黙の一同

マル 私は…どちらにしろ短い命、有難いことに色んなものも見せてもらってきたからなあ。…お前達で決めなさい

沈黙の一同

ソラ みんな、ごめん！僕に…

一同、ソラの方を振り向く

ソラ 僕に…提案がある

レオ …おい！…多分…、…俺も同じこと考えてる

ソラ …それで…いいの？

頷くレオ。他のみんなを見渡すソラ

ギーーと音が鳴り響く。収容室。檻にはN.O. 1の札がかかっている。静かに佇むソラ、レオ、コタロウ、マロン、マル。ココは隅で足を抱え震えている。

マル  
マロン  
うん  
いよいよだねえ

覚悟を決めた表情の5人、ココは怯えた表情  
廊下から扉の開く音が重たく響く。足音が徐々に近づいてくる

レオ  
ソラ  
おい！  
うん、来た！

目を見合わせる一同。下手より番人が現れる

レオ  
マロン  
ソラ  
コタロウ  
マル  
おい、ここから出せ！  
いい加減にしろ、ここから出せ！  
お母さんに会わせろ、元の世界へ返せ！  
出せー！ここから出せー！  
わー！わー！

全力で声を張り上げる一同

一同  
わー！わー！わー！わー！

突然の出来事にびっくりするココと番人。ココ、番人の方に向かい

ココ  
おい！ここからみんなを出してよ！

レオ、剣幕な表情でココに近づき胸ぐらを掴む

レオ おい！こらがキ！わめくな！  
ココ え？だって、あいつが来たたら喚けって！  
レオ 口答えするな！俺の言う事を聞け！お前は黙ってそこにいろ！

レオの気迫に押され、戸惑いながらも一人黙っているココ。

一同 わーーーー！わーーーー！わーーーー！

照明チェンジ

色んな思い、感情を乗せて全力で叫び声をあげる一同

一同 わーーーー！わーーーー！わーーーー！

番人、しばらく躊躇いながらも無言で檻を開け、ココの手を引つ張り檻の外へ連れ出す

照明チェンジ

ココ え？ねえ？どこへ連れてくの？みんな！助けて！  
番人 じっとしてくれ

一同叫び続けている

ココ みんな！嫌だ！助けて！嫌だ！

一同 わーーーー！わーーーー！

叫び続ける続ける5人。ココを連れて下手にはける番人。一同バタリと床へ座り込む

ソラ これで良かったんだよね

マル おそらくな

コタロウ

ソラ みんな、ごめん

レオ すまん

マロン ううん。ここまできたらさ、あんた達の提案に乗るしかないじゃ

ない。もう腐れ縁みたいなもんだしね。そりゃあ最後まで付き合  
うよ

コタロウ、ブルブルと震えている

コタロウ うう…

マル コタロウ…？

コタロウ 死にたくない！

黙り込む一同

コタロウ どうして死ななきゃいけないんですか？

マロン …私だって…みんな死にたくなんか…

コタロウ だったら…

コタロウ、何かを言いかけるが躊躇い

ソラ …ごめん

コタロウ 僕はね…物心ついた時から親がいなくて、色んな人に助けを求め  
て近づいても追い返された。時には追い回された、怖かった。ず  
っと必死に逃げてきた。怯えながら色んな事から逃げてきた。一  
人で必死に生きた。僕は…もつと誰かと一緒に色んな場所に行き  
たかった！もつと色んなことを知れたかった！…もうすぐ、僕死  
ぬんですよね？今死んだら、こんな人生、後悔しか残らない！

マロン コタロウ…

コタロウの目からは涙が溢れている

コタロウ でも、今、何だか生まれてから味わったことのない感情が、ここ  
に、胸の中にあるんです。こんな所でだけ…皆さんと出会えて  
良かった…良かったのかな？ごめんなさい。…ありがとうございます  
ました

ソラ …ありがとうございます

マル ありがとうございます

マロン ありがとうございます

廊下から扉の開く音。番人、下手から現れる

## 照明変化

今までと違い何も反応しない5人

番人

長いことこの仕事をやっている、目を見ただけでお前達がどう  
いうふうに着て、どういう風に生きてきたのか、なんとなくだ  
けど分かるんだ。お前達、一人一人に立派な人生があったんだよ  
な…

静かに佇む5人

番人

お前達は…命懸けであの子を守ったんだよな、なのに俺はお前ら  
を守れない…ごめん、ごめんな…

番人、躊躇いながら大きく手を叩く。黒いマントを羽織った青木、  
赤子が格子の前に立つ。躊躇いながらも一度手を叩く番人。青  
木、赤子、格子を壁側（舞台奥）に向かってゆっくり押し進んでい  
く。今まで以上に大きな機械音が鳴り響く。迫り来る檻に何が起  
こってるのか分からない様子一同

暗転

ガシャンという大きな音  
躊躇いながら番人大きく手を叩く、乾いた音が響く

#10

四角いステンレスの空間。檻はない。ドリームボックス。正面を  
向いて横一列に立っている5人を白い煙が徐々に包み込んでいく

コタロウ 僕たち死んじゃうんですかね

マル この感じ、あの時と同じだ。苦しいなあ…、もし生まれ変わるこ  
とが出来るなら、また…あの人たちの子でありたいのう

マロン …ねえ、レオ？

レオ あ？

マロン 昔さ、私に愛って何？って聞いたこと覚えてる？

レオ ……あ

マロン

私たちは、愛されることは知らなかったけど、あの時、あのあんたが自分を犠牲にしてでもココちゃんを助けたいって思った気持ち、それってもしかして愛するって事なんじゃないのかな

レオ そうなのか？そうか…最後に…少しでも知れて良かった

マロン うん…よかった

コタロウ

誰かから愛されたい、必要とされたいと思う気持ちは誰もが同じみんなは馬鹿にするかもしれないけどさ、僕は今でもお母さんとお父さんを信じてるんだ。これからも…ずっと…

ソラ

手を握りあっている5人。強く真つ白な煙と光が一同を包み込む。光が収まる。床に倒れ絶命しているソラ、レオ、マロン、コタロウ、マル

番人、下手から現れ、一同の亡骸からそれぞれに巻いてあるスクーターを優しく外す。スクーターを強く握り締めそつと目を閉じる

暗転

# 1 1

施設の廊下。やりきれない表情で歩いている番人。番人の携帯電話が鳴る

番人 もしもし

中年の女性の声「すみません、息子から聞いてそちらの施設のホームページを拝見させていただきました…あの…ホームページに掲載されている写真の子をうちで預かりたいのですが、譲渡していただくとは可能なのでしょうか？」

番人 ……

暗転

# 1 2

雨音が収まり、鳥の囀りが聞こえる。朝日の差し込む一室。ココ、外をぼんやり眺めながら「手のひらを太陽に」のメロディーを口ずさんでいる

暫くし、青木が上手からやってくる

青木 おはよう

ココ おはよう！

青木 ん？何見てるんだ？

ココ 雨が止んだなーと思ってさ

青木 ほんとだ、いい天気だな。よし今日は親父とお袋も連れて四人で遊びに行くか

ココ うん！

青木 …ココ、知ってるか？雨が止んで、雲が晴れてお日様が注いだら空に大きな大きな…

ココ あ！虹！それ知ってる！

青木 おお

ココ うん、前にね友達から聞いた事がある！

青木 ココは物知りだなー。そうか、空は広いからな

ココ …きつとそのお友達もココと同じ虹を見るのかもな  
そうだね！…会いたいなあ。皆んな元気にしてるかな

暗転

中央にはやすらぎと記された慰霊碑。

番人、ソラの赤いスカーフ、レオの水色のスカーフ、マロンのオレンジ色のスカーフ、コタロウの緑色のスカーフ、マルの紫色のスカーフを手を持っている。ポケットからココの黄色のスカーフを取り出し、自分の腰に巻いていた青いスカーフを外す。それらのスカーフを慰霊碑に結びつけ、慰霊碑の前で手を合わせる

優しい風が吹き抜ける

ソラの声 「雨が止んで、雲が晴れてお日様が注いだら虹っていう、それはそれは綺麗な輪っかが空にかかるんだよ」

レオの声 「虹？」

ココの声 「そうなの？」

ソラの声 「うん！嫌な事があっても晴れるのを信じて待っていればいつかは綺麗な素敵なものが見れるよって事なんだってさ！」

ココの声 「へえー」

何か覚悟を決めた表情の番人

『風になびく七つのスカーフは祈りと希望のこめられた虹のように…』

完